



円覚寺

発行

鎌倉市老人クラブ連合会
 発行人 大久保安夫
 編集人 都筑 健一
 伊藤 実
 高橋 斌
 〒248-8686
 鎌倉市御成町18-10
 鎌倉市老人クラブ連合会
 (愛称・ゆめクラブ鎌倉)
 ☎(0467) 23-3000

印刷 (株)博報社 大阪市平野区喜連西4-6-69 ☎(06)6797-0212

次号は千葉商科大学 政策情報学助教授 宮崎 緑氏が登場



かまくらびとに聞く
 円覚寺派管長 足立大進老師

今回の「かまくらびとに聞く」には、臨済宗円覚寺派大本山、鎌倉五山第二位の円覚寺・足立大進老師にご登場いただいた。老師は今から七年ほど前、僧堂の師家を譲り管長職に専念し、「ご自坊を傳宗庵に移された。訪れた者の心を癒す傳宗庵の庭は、老師自らが手塩にかけて育てられた木々や草花にあふれ、現代人が忘れかけた五感を呼び覚ましてくれる。現世に生かされる喜び、感謝の心、慈しみの心など、殺伐とした今の社会に生きる会員諸氏に、一服の安らぎを与えるメッセージをいただいた。

(二頁へ続く)

地域に広がるいきいきサロン事業

地区の拠点が、また新たに誕生！健康カラオケ会

地区拠点として「健康カラオケ会」が八月に誕生しました。さわやかな山気が漂う名



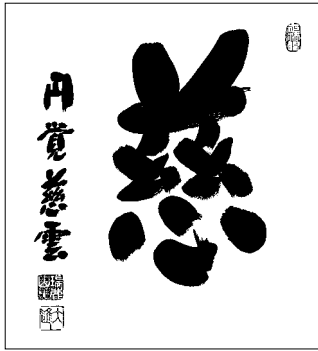
毎月四・五回くらい、火・金曜日の午前十時頃から午後五時頃まで、手弁当や出前を取っての集いに



刹・極楽寺から程近い環境で、私達の憩いの場所としてサロン事業が好調に滑り出しました。

ゆめもも 55号 主なもくじ

- 2面 足立大進老師インタビュー
- 3面 クラブの動き
- 5面 ゆめクラブ鎌倉の動き
- 8面 部会だより
- 9面 テーマ随想「私の海」
- 12面 鎌倉散歩 やまももさん



高齢社会と呼ばれて久しい昨今、私たち高齢者が為すべきこと、そして次代の子どもたちに残すべきものについてうかがって見たところ、老師は「戦後六十年が経過した今、日本人の心が荒廃した社会が浮き彫りになってきた。自分のことしか

「よくお越しくださいました」。満面に笑みを湛え、老師自らが私たち一行を出迎えてくださった。老師直々に入れてくださったお茶を有り難くいただきながら緊張をほぐし、老師に案内された茶室に場所を移して、早速お話をうかがうことにした。

一二八二年、北条時宗が創建した臨済宗円覚寺派大本山、円覚寺。緑豊かな六万平方メートルの境内の中で静かに、そして悠然と構える傳宗庵に二月二十二日、円覚寺派管長・足立大進老師を訪ねた。

考えないような身勝手な若者が増える一方で、これといった手立ても講じられない。今こそ、戦中戦後を生き抜いてきた高齢者の方々に活躍してもらって、世の中を変えていただきたい」と語り、それは期待でもあるし、責務でもあるのではないかと付け加えられた。



足立大進老師 プロフィール

あだち・だいしん 1932年、大阪生まれ。1946年、兵庫県の臨済宗妙心寺派の寺で得度。花園大学卒、東洋大学大学院修了。1969年、円覚寺僧堂師家代参。1980年、臨済宗円覚寺派管長に就任、現在に至る。著書に「ありがとうの人生 足立大進 仏心講話集」「安心の道しるべ」「もう死んでもいいですか、ありがとう」(春秋社)等がある。

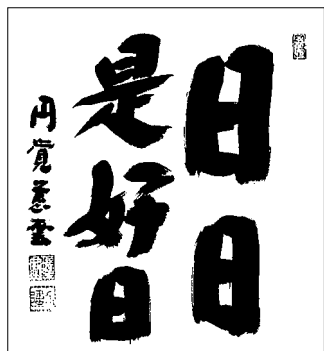
尊厳を尊ぶ心、家族を愛し敬う心なのです。昔はそうした心を育むことが容易でした。周りに教えてくれる大人が多かったんです。家庭の中でも、家長たる父親の存在は絶大で、その背中を見て子どもたちは育ちました。封建社会のよう

で嫌う人もいますが、そうではありません。家庭の中に人としての範があり、深い慈しみの精神があふれていたのです。今の世の中の荒廃ぶりは、何でも子どもが一番で、最優先という甘やかした教育を家庭で続けてきたからなのでしょう。もう

今の社会は戦後六十年かかって作られた社会。これを変えるには百年はかかるだろうが、本当の意味での国を愛する心、慈しみの心とでも言いましょうか、その心を持つ高齢者の方々が、若者に手を差し伸べることが大切なのです。

愛国心というと、すぐ戦争に結び付ける人もいますが、そうではなくて、国を愛する心、自分の国を愛する心というのは、慈しみの心、全ての人の

そろそろそのことに気付いて、良きにつけ悪きにつけ向き合っていかなければいけないですね。高齢者の方々にお願いしたいことは、「捨てる」



という気持ちを持つことですね。家を捨てるとか、財産を捨てるとか言っているのではありませんよ。人に依存する気持ちや当たり前という気持ちを「捨てる」ということです。さきほどお聞きしましたが、老人クラブに入会してメリットを求め人がおられるとか。その方々には是非、「捨てる」という気持ちを持つていただきたいものです。

生きていくというのではなくて、生かされているという気持ちを持つこと、そうすれば思いやりがでてくるようになるということです。これは宗教的な考えですが、悟りとかではなく、もっとわかりやすく言うと、「お

れが生きている」という考えから「おかげで生かされている」という心を持ちましょうということです。

高齢者の方々が皆こうした心を持つと、その姿を見る子どもたちや、その親の世代にもいい影響を与えることでしょう。まだまだ皆さんには第一線で活躍していただかねばなりませんよ。

高い目標を持ち続けることが、その人を謙虚にさせるという足立大進老師。円覚寺派管長という雲の上の存在にして身近な先生という風貌は、正にその教えのまま。穏やかな、まあいい笑顔の老師に、「日々謙虚に志は高く」を身をもって教えていただいた。

クラブの動き

小袋谷亀甲会

2クラブ町内会 一体の諸活動

横須賀線で大船から鎌倉方面に向かうと左側に小高い山が見えてくる。亀甲山という。昔は小坂小学校方面に連なっていたが、戦後開発されてその姿は一変した。この山に小袋谷の鎮守、殿島神社があり、西側に山を背にして浄土真宗成福寺がある。



私ども老人会は、この由緒ある名をいただき亀甲会と称し、町内会と一体となつて歩んでいる。会員百十余名。便宜上、第一、第二亀甲会と分けているが、業務はすべて一緒である。

役員会、総会で年間事業計画、また、各部の運営・実施状況をもとに進められている。

(1) 社会活動

神社、公会堂の清掃を毎月初めの日曜、午前八時から実施。境内の除草、立木の伐採、神殿、高い石段などを手分けして行っている。また、主要道路のゴミ、缶、ビンなどの収集、毎週水曜の午後から防犯パトロールを施行している。昼間の留守家庭が多いことで、この町内で被害を受けた家があつたからだ。

(2) 健康活動

体育部が中心となり、子ども広場で月四、五回、午前中ゲートボールを楽しんでいる。毎回二十名余、秋には大会を開いて交流を深めている。

(3) 教養活動

民謡教室を二組編成で、木曜午前中、公会堂で演技をみがいている。また趣味の写真教室を今年度からはじめた。

(4) 厚生部

春秋のレクリエーション、山北の中川温泉は楽しみ。また新年会、敬老会も盛会である。町内会、青年部のおはやし会も参加を願ひ、獅子舞いで盛りあがる。以上、亀甲会活動の一面を記してペンをおきます。

安岡 豊房

材木座海楽会

真心こめ

静養館へ奉仕

私たちの会は「海楽会」と申します。材木座地区にあり、前は海、後ろは山と唄の文句のような風情ある場所です。夏は水中花火、秋は光明寺のお十夜、冬は真赤な太陽が海に落ちる様子が見られるところです。

三十六名の会員は皆様お元気で、私の家の集会(お楽しみ会)にも八割方出席してくださいます。会のはじめは全員で「鎌倉」を歌い、それから報告やお願いなどお話しして食事になります。大きな鍋で作った豚汁と炊き込みご飯を皆で囲めるのは自宅ならではこのと。お友達との昔話に花を咲かせ仲間との親睦を深める有意義な一日を過ごしています。

今年度から、有志の会員が静養館で三回の講習を受け、車椅子や言動などの心構えをしっかりと勉強し、毎週木曜日にご奉仕を始めました。その活動の中で地域の歴史をはじめ、いろいろな事を学んでおります。また、年末に納める予定で会員からタオルを集め、ただいま台フキンを手作業で作成中。真心こめた品をお届けする予定です。



その他、公会堂の掃除を年四回、地域の一翼として積極的に参加し、掃き掃除や網戸洗いなどをしていきます。古い浴衣を風呂敷に作り替え、座布団を収納する工夫もしています。清掃作業が終わった後は私の家でお

茶会を催し、再び話に花を咲かせ元気の源を養っています。

私が会長になって一年が過ぎましたが、会員のご協力があつての事と心より深く感謝しております。従来の老人クラブのあり方から少し視点を変え、何かをしてもらうという意識から、自分たちが進んで参加させていただく意識に変える事が大事であると思います。情性で活動するのではなく、何かを公で行うためには皆の協力が不可欠です。ひいては老人クラブの魅力を最大限に出していくことが大切だと心に留めています。

伊藤 武子

「君、永遠に美しく」

明眸、原節子の軌跡

姿を消して四十四年、お元気にお暮らしですか



二階堂白寿会 門田 京蔵

原節子さんは、一九二〇年六月横浜生れた。二男五女の末子である。外交官夫人に憧れたが、次姉(女優)の夫、熊谷監督代表作「阿部一族」のすずめで日活に入社。アイドル映画・文芸映画と立て続けに出演し、入社して翌一年六作目に山中貞雄監督の「河内山宗俊」の出演から彼女の運命が急展開する。

たまたま日独合作のため来日したばかりの山岳映画の第一人者A・ファンクが京都撮影所の見学の際、原の美貌をみて急遽原の出演を決める。

この映画「新しい土」(S12)のドイツ・ヨーロッパ十三万国の公開に、川喜多長政(東和商事社長)、熊谷監督等と立ち合いて、数千万の観客が動員されて一躍時の人となってしまふ。帰国して義兄とともに東宝に移って二、三年後(S15)松竹から島津保次郎監督が移籍してきた。まだ勉強不足だった原を徹底した演技指導で当たる。わずか二年半に、彼



東京物語(昭和28年) 笠智衆・原節子・東山千栄子

女の出演作二十三本の中六本が島津の作品(嫁ぐ日まで「母の地図」等)であり、彼女は島津こそ最初の大恩人であると語っている。しかし島津は終戦の年九月無念の死を迎え、もし健在ならば出演作の流れは変わっただろう。

原の開花は、「わが青春に悔なし」(S22黒澤明)、安城家の舞踏会」(S22青柳信雄)と秀作に恵まれ、戦後日本の希望の星といった観え持たれる。更に「青い山脈」(S24今井正)で知的な女学校の先生、純白のブラウスに蝶ネクタイの凛とした颯爽たる姿は輝くばかりに美しく、後の紀子像とあわせて我々の脳裏に焼きついた。

この年の「お嬢さん、乾杯!」(S24小津安二郎)、「晩春」(S24小津安二郎)と、すべてベスト・テンに入るが、この年から民主主義の輝かしき女神は、緩やかな転身を始める。それは貞淑にして思慮深き女性への変身であり、小津と成瀬の指導により憂いと潤いとを併せ持った演技が見られるようになった。

二十六年も「麦秋」と「めし」でキネ旬のベスト・二位に輝き、人気、実力ともにトップ・スターとして認められたのである。話を小津に戻すと、原のたの最初のシナリオは「晩春」

(S24)であり、次の「麦秋」(S26)とともに婚期を逸しかけている娘を、日常的な喜怒哀楽の家族のスケッチの中に淡々と描き込んだ。原は実年齢とも重なって、品よく初々しく過剰なほどの恥じらいと控え目な素直な主人公は自分が納得してごく自然に地で演じられた。

「麦秋」と「東京物語」の前後に成瀬は、サラリーマンの妻という内面的演技が要求される役で、「めし」(S26キネ旬)「山の音」(S26キネ旬)を撮る。この二本は成瀬の「浮雲」と共に代表作となり原にとっても、演技の幅を広げて成瀬の期待に応えた。

さて「東京物語」(S28キネ旬)である。六年前に戦死した夫の両親への振る舞いも親孝行という封建的な匂いを感じさせず、気品と敏活な動きが身についた凛然たるOLを演じた。



この映画の紀子は、むしろ脇に位置するのだが、彼女あってこそこの映画なのだ。上京時原の家に一夜世話になる東山千栄子と、また死後笠智衆の父親と帰京の別れに交わす二つの場面は、原の最も美しい笑顔の数々が目に残る。ここで彼女が表現したのは、人間の誠実さというものの純粋な醇乎たるイメージであった。

「やっぱりこのままじゃいけないよ、なんにも気兼ねはないけえ、ええとこがあつたらいつでもお嫁にいつておくれ」という父親に対して、「あたし狡いんです」から始まり「とんでもない」で終るこの会話は、見事なもので、この映画の至高の場面である。

折しも六月九日付のイギリスの「TIMES」が、過去作られた世界映画の中から、遂に「東京物語」が「市民ケイン」をノック・アウトして、NO.1になったと報じた。(The greatest story ever told 'Citizen Kane has been knocked off its perch') 原さんは名譽あるこの嬉しい情報を知っているだろうか。

結局この後、「東京暮色」(S32)、「秋日和」(S35)「小早川家の秋」(S36)の三本が小津作品で主役は「秋日和」のみ、出演作六本のうち四本で彼女に喪服を着せて、永遠の未亡人のイメージに閉じこめた。

三十八年の遺作「秋刀魚の味」には彼女の役はなかった。原は自らの小津作品での役割は終わったと感じていた。前年原は「忠臣蔵」と「娘と私」に出ているが、この後出演作はなく(謝絶?)、引退宣言もなく、静かな生活に入る。

三十八年十二月、還暦の誕生日に小津の死がくる。通夜で原と杉村春子は、あたりはばかり号泣したという。彼女は引退後、浄妙寺脇で芸名と決別して、本名会田昌江として暮らしておられる。

若き日、熊谷監督の友人M氏の家が稲村ヶ崎にあり、原はM・H嬢とよく泳いだ。こ

の人が節子小母さまの現況を聞ける唯一の情報源なのだ。七月中旬の電話の原さんの声を要約すると、

「すこぶる元気です。外へはほとんど出ず、家と庭の中だけ。入口の方に熊谷家、私の方は奥だけど、バスガイドさんの「ここが原節子さんの家です」という声が聞こえ、垣根の間からのぞかれるので要注意。食事は原則として自炊。買物はすべてお願いして、時々母屋でこちそうになる。いつか車にのせてもらって、葉山のハートの病院(葉山ハート)へ行つたが、大変きれいな眺めのよい病院なのでお世話になりたい。だけど心臓が悪くないと入れないわね」



最後に私は日本の三大女優は田中絹代・高峰秀子・原節子と思う。絹代は「サンダカ」八番娼館」で執念の演技魂で晩年を飾り、デコちゃん、松山監督と仲良くエスプリの利いたエッセイを書きながら余生を送っている。

わが原節子は、その麗姿をファンに記憶に鮮やかにとどめて、今もって女性美の聖なる象徴として伝説の人になりつつある。まさに彼女らしい美学ではないか。原さん、永遠に美神としてお元気にお過ごし下さい。

ゆめクラブ鎌倉の動き

市老連活動の報告と情報コーナー



第41回老人大学寿講座

鎌倉びとの生活と信仰

講師 鎌倉国宝館館長 三浦 勝男氏

七月五日から八日、レイウエル鎌倉で老人大学寿講座が開催されました。会場は連日満員御礼で、聴衆は我を忘れて聞き入り価値ある二時間を過ごしました。

私たちの現代生活の原点は鎌倉時代にある。頼朝は、源氏と縁が深く、要害の地で東海道が通っていた、という三つの要素で鎌倉に幕府を開いた。都市計画の際、頼朝は青龍、朱雀、白虎、玄武の神々を町の四方に据えて地域を守るという中国の四神相応思想を取り入れた。日本人の感覚にある神の存在は、古来からの山岳信仰などと四神相応などが混在したものである。この時代の平均寿命は五



講師の三浦先生

鎌倉時代の女性は忍耐強く、実によく働いた。女性が友人たちと酒を飲みはじめたのも鎌倉時代からのこ

十歳。余生は旅などで楽しんだ。しかし長く生きるとその分だけ労苦もある。鎌倉時代の人は、信仰上、「生きる事が一番苦しい」と真剣に考えた。生きていく限り四苦八苦がつきまとう、これ以上ない苦しみ心理である。宝積経など仏教を念頭に考えてみると、女性は虐げられる存在だった。三従の教えとは鎌倉時代の言葉である。しかし女性は強い。

とで、女房詞で九献という(九献は現在の神前結婚式で行う三々九度のスタートである)。夫婦別姓であったことも含め男女同権的な扱いで、働いていたからこそ持てた権利である。また、山開きの儀式を最初に行ったのが頼朝。いかに山の神を恐れたか。これは転じて自分の女房(北条政子)への恐れにつながる。寺の成立は中世では重要なことで、個人で経営する私寺や縁者で経営する氏寺、官寺がある。建長寺は北条時頼により日本初の純粋な禅寺道場として建立され、禅宗が本格的に広まる礎となった。

しかし鎌倉武士が禅宗をよく理解していたというのは嘘。理解したのは一部の上層武士で、建長寺などに行けば雨風を凌ぐだけでな

く、食べ物にも不自由ない状況に惹かれ人が集まったのである。しかし、結果として今も残る文化財は北条氏執権政治時代の建長寺あるいは鎌倉五山が生み出した貴重な遺産なのである。

開催日	演 題	講 師 名
7/5(火)	鎌倉びとの生活と信仰	鎌倉国宝館館長 三浦勝男氏
7/6(水)	元気で生きぬくための医者とのつきあい方	医療ジャーナリスト 和田 努氏
7/7(木)	明治維新の真実	作家・鎌倉ペンクラブ会長 早乙女真氏
7/8(金)	あの日、あの歌、一緒に歌い交せば心も健やかに	うたごえの店ともしび・ソプラノ歌手 小川邦美子氏



十一月十一日、鎌倉生涯学習センターで鎌倉市老人クラブ連合会功労者のつどいが開催されました。

平成十七年度 鎌倉市老人クラブ連合会 功労者のつどいを開催

魅力づくりと 会員増強

午後一時三十分、中田副会長の開会のことばで第一部式典が始まり、君が代斉唱のち主催者を代表して大久保会長の挨拶がありました。

会長は挨拶の中で、老人クラブが地域の担い手として益々重要性を高める一方、老人クラブが抱える会員の高齢化や減少、未加入、後継者問題などに触れ、会

員増強運動とともに、活動内容の見直しや新たな企画の導入など、魅力あるクラブづくりに向けての意識改革が必要である旨を述べ、協力を求めました。

続いて功労者表彰が行われ、それぞれの代表者に大久保会長より表彰状の授与がありました(詳細は八面の部会だより・総務部に掲載)。



来賓祝辞では、小川保健福祉部長をはじめ藤田市議会副議長など多数の方々からご挨拶があり、ゆめクラブ鎌倉へエールが送られました。

第一部は作家の安西篤子氏(「写真上」)を講師に迎え、「戦国時代の夫婦たち」の演題で行われました。安西氏は、来年のNHK大河ドラマが「山内一豊とその妻」であることから、今回のテーマを「戦国時代の夫婦たち」とされ、戦国の世を生きた「山内一豊と千代」、「前田利家とまつ」、「浅井長政とお市」などの夫婦愛やその生涯について講演され、会場はしばしば戦国時代に思いを馳せ、熱心に聞き入る姿が目立ちました。

第10回グラウンドゴルフ大会

参加百六十名の頂点をかけた熱き戦い

十月二十日、鎌倉市笛田公園グラウンドで第十回グラウンドゴルフ大会が開催されました。前日まで心配されていた天気は嘘のようにさわやかに晴れ、絶好のスポート日和となりました。



開会式では、小倉スポーツ部長の開会宣言の後、大久保会長より選手の方々にエールが送られました。来賓紹介、市長杯返還に続いて、参加者約百六十名を代表して松岡政之輔さんが選手宣誓。「マイクはいりません！」と元気いっぱいの宣誓に選手の方々の志気もさらに高まって、いよいよ競技開始。

初参加の方も、毎年参加されているベテラン勢も、青空の下で思いきりグラウンドゴルフを満喫し、「おーいねー」「ナイス」と声をかけ合いコースを回

りました。

試合のあとはお楽しみみのホールインワンゲーム。多くの方が何度もチャレンジし、景品がなくなるまで盛り上がりしました。

回を増すごとにレベルアップするこのグラウンドゴルフ大会。次回の大会にもますます期待がかけられます。

大会成績

男子の部

優勝 高橋 久徳

(大蔵みなもとクラブ) 41打

二位 石曾根 久治

(稲村方崎稲穂会) 41打

三位 松岡 政之輔

(二階堂白寿会) 42打

女子の部

優勝 平川 しづ子

(雪ノ下寿会) 38打

二位 山口 その子

(城廻寿会) 40打

三位 庄司 まち子

(雪ノ下寿会) 41打

優勝者インタビュー

男子の部

高橋久徳さん(67歳)



第七回の優勝者でもある

高橋さん。実力は確かなはずですが、今日の勝因は「みんなの調子が悪かっただけ」と至って謙虚。いつ

も真つすぐ打つことを心がけていて、今後も生涯スポーツとしてつき合っていきたいと笑顔のコメント。

女子の部

平川しづ子さん(78歳)



よりも皆さんと明るく健康

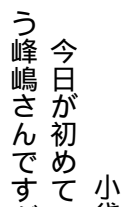


る健康

的に運動できるのが何より楽しい。今日も気持ちよくプレーできました」とニコニコ。健康の秘訣は、負けずともよくよいしないこと。

個人インタビュー

峰嶋郁郎さん(80歳)



小袋谷亀甲会

今日が初めての試合という峰嶋さんですが、始まる前に「ホールインワン!」と大喜びです。クラブを握ったのは前日、時間は三十分間でした。それな

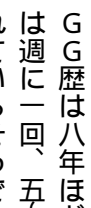
のこの腕前はゴルフ歴四十年の賜物でしょうか。

中島フサエさん(77歳)

「いつもは五、六打ばかりだけど、今日は少し打数が減った」と喜びの表情の中島さん。



が減った



と喜びの中島さん。

GG歴は八年ほどで、練習は週に一回、五、六人でされているそうです。健康のために始めたグラウンドゴルフを今後も続けていきたいのだとか。

石曾根久治さん(86歳)

二度も優勝を経験されている石曾根さん。強さの秘訣は「運だよ」と言います



が、球を打った後に「入れ、もつと寄れ」と声を出して球の行く末を案じ、一球一球をととても大切にされている姿がうかがえます。調子が悪いというこの日の結果も二位でした。



ゆめクラブ逗子との情報交換会

7月13日、ゆめクラブ鎌倉の編集委員とゆめクラブ逗子広報部との情報交換会が実施されました。

この情報交換会は、「やまもも」をリニューアルして早3年を迎えたゆめクラブ鎌倉が、今後の紙面づくりに新しい展開を求めてゆめクラブ逗子に申し入れたもので、今回が初めての試み。紙面づくりに情熱を傾ける者同士、互いの思いを語り合い、予定の時間をオーバーする意見交換となりました。

男の料理教室

—男の自立と友達づくり—

化学調味料を使わないレシピと、短時間でできる手軽さが人気の講座

福祉センターでは雪ノ下寿会の会員・夢沼誠一氏が講師で、「男の料理教室」を鎌倉市の教養講座で毎年開いている。男の自立と友だちづくりのために始められたこの講座は、講座終了後も自主グループができて現在十グループ、約二百名の生徒を抱える人気教室である。



芋の葉などを並べ、暑さで食欲がなくなるこの時期に、爽やかな彩りで楽しませると「黄色にグリーンが映えるなあ」と感心の声頻り。



七月五日のメニューは豚挽き肉団子の甘酢あんかけ、冷し中華(海の幸)、卵の寒天寄せ。エプロン姿の参加者は始まるまで和気あいあいと、調理が始まるとまるでレストランの厨房のように慌ただしく動き回り、真剣そのもの。



「皿の上に絵を描いてみよう」と、先生が卵の寒天寄せの周りに山ぶどうや山

感じます(夢沼先生「写真」)。これからますます需要が増える「男の料理」。この教室もさらにパワーアップしていくことと思われます。

各グループ若干の空席あり。入会希望者は二二二〇〇番 夢沼まで。

レシピの紹介

【冷やし中華そば(海の幸)】

材料(2人分) 中華麺

2玉 塩蔵わかめ 30グラ

ム 小海老 6匹 糸寒天

少量 いか 1パイ レモ

ン、トマト、キュウリ

たれ(醤油大さじ1と2/1、砂

糖大さじ1、塩小さじ2/1、酢大

さじ1、ゴマ油小さじ1、ハチミツ

小さじ2、レモン汁大さじ1、しょ

うが汁大さじ2分の1、水カップ

2/1、あたりゴマ大さじ1)

作り方

①中華麺はたっぷり湯の中ですしやわらかめにゆであげ、水洗いしてゴマ油少々をまぶします。

②小海老は殻をむき、背ワタを取り、サッとポイルします。糸寒天は水で戻し、4センチの長さに切り、いかはワタを取り除いて皮をむき、花切りにしサツとポイルします。塩蔵わかめは塩抜きして適当な大きさに切ります。

③キュウリは千切り、トマトはスライスします。

④たれを合わせて冷やしておきます。

⑤深めの皿に1の中華麺を盛り、具を色良く飾り、その上に④のたれをかけてできあがり。



永平寺山門

秋の研修旅行

城崎温泉・芦原温泉
永平寺参拝

夏の暑さがまだ残る九月七日から九日にかけての二泊三日の旅行は、城崎温泉、芦原温泉と永平寺の参拝だった。九州方面が大荒れの台風が二ユーを聞きながらの出発であった。途中の雨はバスの中だったのであまり気にはならなかった。足柄SAでバス二台合流、参加八十八名、昼食は車中弁当で先を急ぐ。中国自動車道を福崎ICで右に折れ、トンネルの多い道を走って日本海側に出る。円山川河口に近い城崎温泉郷に到着。海も近い温泉街、台風はすでに行き過ぎた後だった。ここはユニークな温泉街で券を持って何軒かのホテルを巡って入浴できるのだった。



夜はカラオケの宴会を楽しんだ。翌朝は八時にホテル発、天橋立の宮津側起点にある文殊堂を参拝する。それより舞鶴引揚記念館見学、六十年前の忘れかけた出来事の思い出に涙を流して時を過ごした。福井県小浜で昼食、お箸の製作工場で楽しむ、敦賀、武生を過ぎて芦原温泉へ五時頃到着。ホテル「千千」は立派な設備の旅館だった。露天風呂は思わず足をはこんで入った。松の白い丸木柱でアツマヤ風の大きな屋根の

所、偶然の多い世の中で誠実だけでは幸せになれない時がある。バスは間もなく永平寺に着。山内入口で一同記念写真を撮ってから参拝する。禅宗最大の宗派の曹洞宗の大本山の壮大な規模は私の想像を超えるものだった。七堂伽藍を拝観、参拝する。若い修行僧の姿の清々しさに心を打たれる。門前で昼食を済ませて一路帰宅、案外早く七時だった。教養部 高橋 斌

翌朝は八時三十分出発間もなく「越前の館」と言う土産物店に到着した。大きな店の入口のウィンドーには「越前竹人形」を作っている職人の実物大の人形が飾られていた。芦原温泉は作家水上勉の小説、越前竹人形に出る薄幸な女性の哀れな物語を思い起こさせる

地区だより

鎌倉第一地区

いきいき3B会

十二所ちとせ会
春日 一郎

鎌倉第一地区のいきいき体操は、スポーツ部との連携が極めてよく、週一回五日間の日程を盛況のうちに終えた。参加者も当初の予定人員を大きく上回り、四十名以上にふくれあがり、鎌倉青少年会館最大の会議室も手狭に感じられた。参加者相互と指導された先生とのコミュニケーションが良好であったこと、体を動かすことに興味と自信を持ったことで、参加者からこれで終わることなく、

このままサークル活動化して継続してほしいという希望が強く、次のようなグループが結成された。名称は「いきいき3B会」。先生は公認指導員、松本公代氏。会長・会計担当役員は、当日参加者の互選により決定。規約、今後のスケジュールは、壁谷スポーツ副部長を交え、後日決めることとなった。

ペタンク研修会

地区での普及めざし
27名が研修に励む

昨年に続き、今年も六月二十四日(金)、笛田公園広場にてペタンクの研修会を行った。今年とは昨年と異なり、今

後各地区で普及活動を促進するための指導員を養成する目的で、各地区より選ばれた四名ずつの候補者に対し、鎌倉ペタンククラブの指導員四名から指導を受けた。今回の研修は「競技会場をめざしペタンク競技のレベルアップをはかる」を目的に、午前二時間は基本ルールとボールの投げ方を練習、午後二時間は競技の進め方を練習した。参加者二十七名を四組に分け、各組に指導員が一名ずつ担当して行った。ボールの投げ方も色々あり、マスターするのは大変であるが、奥行きが深いだけに面白い。午後の競技練習は三人と三人のチームに分かれ試合を行った。自分チームと相手チームのボールの位置を把握し、次にどのようなボールを投げるのがベストか投球のねらいを常に考え、またチーム内で作戦を検討しこれに従って投球するが、一球ご

玉縄地区

地区活動だより

加藤 好雄

地区内に十三のクラブがあり地区会を結成、連携と親睦をはかるために五つの



③「いきいき健康体操」を玉縄すこやかセンターで六月二日より七月十四日の間に五日間実施。延べ百三十名の参加があり、継続の希



望が多く、「サークル活動」として九月より実施する。

④スポーツ活動は各クラブで実施する。
⑤玉縄社会福祉協議会、玉縄女性の会と交流し会員の福祉向上をはかる。

大船第一地区

地域懇談会を 発足

離山ちとせ会
伊藤 仁

当地区は岩瀬・今泉・大

船の十五単位クラブで、広い地域になりました。補佐二名の方には種々ご苦労をおかけしております。他に会計・一円玉係をお願いし、地区会長懇談会として発足し活動を始めました。理事会の後、報告を兼ねて地区会長懇談会を五回、町内会館を利用して行っています。行事として、会員六百六十三名に呼びかけ、歴史散歩会とお話をうかがう会を計画しています。今までゆったりとした懇談が少なかったため、各会長とも抱負はありながら悩みも多かったようです。単位クラブの様子を聞き、自分の会の運営に、よい参考として役立つことを期待しています。情報交換は毎回いたします。

部会 だより

スポーツ部

部長 小倉 弘二

人間の体は使えば機能が向上し、使わなければ低下します。これは筋肉だけでなく内臓にも影響します。息をはずませれば心臓や肺のためになり、また血行が良くなれば肩こりの予防になる。腹筋、背筋の強化で腰痛を防止。大腿四頭筋の強化で膝痛の予防や転倒骨折も防ぎます。また、皆と会えばストレス解消になります。

私は精神的にも肉体的に

も元気で楽しく長生きできるようにスポーツを勧めたいと思っています。

現在行っているのは、グラウンドゴルフ、出前いきいき健康体操、ペタンク競技です。どれも無理なく運動ができ、友だちとおしゃべりができる楽しいものです。

問題は、どついたら参加されない方々をお誘いできるかということです。気軽にお出で下さい。健康で楽しい余生を送りたいものです。

総務部

部長 青山 敏信

本年度総務部は、行事別に担当するのではなく、次のような体制で取り組むことにしました。

レクリエーション部

部長 石渡 伸一

レクリエーション部は昨

企画担当 功労者のつどい、賀詞交歓会等、市老連行事の計画、立案

運営担当 計画立案された行事の実行
会計担当 市老連全体の会計処理

部員十二名、それぞれ担当し業務を遂行していきま

す。なお、十一月に実施された「功労者のつどい」の表彰者の推せん調査の結果は左記の通りです。
優良老人クラブ 二団体
十年在職功労会長 二名
五年在職功労会長 六名
一般会員功労者 一一八名
特別表彰者(百歳) 四名

世代間交流

「世代ふれあいの会」を行いました

大平山丸山白扇会

去る五月二十二日、昨年に引き続き市老連や町内会の来賓をお迎えして、第三回「三世代ふれあいの会」を行いました。

まず、町内コーラスグループ「晩声会」の先導による、みんなで歌いましょうの参加者約百七十名の全員合唱、続いてブロック対抗伝言ゲーム、あやとり、ふれあい囲碁、ペーゴマ、ペ

日頃このようなふれあいの大切さを提唱され、この会を始められた大橋前会長も、お元気で参加されました。

今回の成功は子供会をはじめ民生委員や各種同好会など、町内一丸となつてのご協力のたまものです。ご便宜をいただきました深沢中学校へ、深く感謝いたします。

池田 米一



年同様、芸能大会が二回、ダンス講習会が五回にわたって開催されました。

芸能大会は、生涯学習センターで皆様の得意な芸能が披露されました。

ダンス講習会は、やさしい指導の下に手をつなぎ、リズムにのって楽しくステップを踏みました。時を過ぎすうちに調子が出てきて、スムーズに動くようになるのは嬉しいことです。

この機会に、回を重ねるごとに親睦が深まり、クラブの行事などにも参加しようという意欲が高まるのは嬉しいことと思います。

鎌倉駅の地下道ギャラリーの趣味の作品展では、市民や内外の観光客などからも好評の声が多かった。今年も私たちの励みとなつて、さらに充実された内容で終始したことは記憶に新しいことと思います。

女性・社会活動部

副部長 相澤 静子

本年度から、女性部と社会活動部が一体化し、女性・社会活動部として発足しました。

従来は、女性部の仕事としては、①友愛活動(市内の老人ホーム)②福祉バザーへの協力等で、社会活動部の仕事は、社会貢献活動(公共施設の清掃活動等)が主にあげられます。

女性・社会活動部として

発足することで、会員数等も老人クラブ連合会部会の方でも充実した部会になりました。

今年からは友愛チームを一チーム増加し、市内の老人ホーム三カ所(鎌倉特養静養館、プライエムきしる・七里ヶ浜老人ホーム)に定期的に出向いて、入所中のお年寄りたちの話し相手として活躍し、また一方では鎌倉市内の公共施設等の清掃活動を率先し「美しい鎌倉」のまちづくりに励んできました。

今後会員の生きがい活動の一環として充実を図り、取り組んでいきたいと考えています。

教養部

部長 都筑 健一

平成十七年度の「老人大寿講講座」は、去る七月五日から八日までの四日間「レイウェル鎌倉」で開催され、皆様方のご協力をいただき盛況のうちに、しかも好評の声が広がる中で閉じることができました。(詳細は五頁に掲載)

多くの一般市民も出席されたことは、ゆめクラブ鎌倉への認識の向上にも資したのではないかと思います。

資料作成、その他各種の協力関係においても教養センターの方々は密接な連絡を交互に行い、特に担当



の方々のご苦勞に対しては心から感謝いたします。また、広報紙「やまもも」については、いつも切れ目のない取材と編集で関心を寄せてくださる方々の英知を集結し、委員会も全力をあげて内容の充実に向けてまいりますので、皆様からのいろいろな情報を年間問わずお待ちしております。

ゆめクラブ鎌倉作品展 好評博す

力作が並んだ作品展コーナー



11月8日から14日までの7日間、JR鎌倉駅地下道の「ギャラリー50」で、ゆめクラブ鎌倉作品展が行われました。

今年の作品展には、鎌倉第1・2・3地区から25名が出展。写真や書、手芸品、鎌倉彫など見る人の心を惹きつける名作が並びました。

またJR鎌倉駅側では、仲間づくりをテーマにした市老連PRと鎌倉第1・2・3地区の活動を写真パネルで紹介。老人クラブでいきいきと活躍する高齢者の姿が大きな反響を呼び、好評を博しました。



市老連PRと活動紹介コーナー



S28年 ミス・カーニバル 後姿はヘレン・ヒギンス嬢

現役時代の回想

扇ガ谷福寿会
伊藤 実

昭和三十六年十二月、当時勤めていた会社が工場を拡張するため、大船に新工場を作った。それがきっかけで、鎌倉に住むようになった。

住まいは、源氏山の北側の扇ガ谷で、海は見えないが静かな谷戸であった。それでも元旦の「初日の出」を見るために、由比ヶ浜で焚火を囲んで日の出を待ったことも何度があった。

新工場での仕事は学卒者の求人活動が主で、会社は専用の車を買って湘南地区、三浦地区の中・高校を訪問して学卒者の確保に力を入れることになった。それに心えるため、難しい自動車免許を取って、学校を訪問することが日課になった。四十一歳のときである。

滑川のR134号を三浦地区へ行く時は左折し、湘南地区へ行く時は右折して学校を訪問するようになってから、海との出会いが多くなった。仕事の途中とはいえ、磯の香りを感じながら走るの心地よく、材木座、由比ヶ浜、腰越の海岸を走りながら、早春の海で波に乗って楽しむ若者を見たり、夏も終わりに近づくと、海の家が一つずつ解体されてゆくなど、四季の移り変わりを身近に感じる日が続いた。

付近で車を止めて、海岸に近い質素なお店で新鮮な「釜あげしらす」や「たたみいわし」を買って、家族に喜んでもらったことも忘れられない。

反面、海の荒れた日など、材木座に近い逗子有料道路

久米さんの神主姿は昭和二十二年のカーニバルだ。お祭り騒ぎのカーニバルも、食糧不足の時だけに多少気がねしながら久米さんの背にした旗に「腹がへつてもひもじうない ここじや祭りが米のめし」と書いてあった。この年のカーニバルの主神は大きなカニで「カニバル」としゃれた行事だった。

横山隆一「鎌倉通信」(其の二)より



岩に砕けて、もろにフロントガラスに振りかかり、一瞬前が全く見え怖かったこともあった。

そんな仕事で十年余り続いたが、今になって思うと、仕事の途中とはいえ、鎌倉の海がどれだけ生活に潤いを与え、また怖さを教えてくれたらどうか。今でも時折り海岸を通るたびに、思い出しては感謝している。

一度きりの

母との海水浴

浄明寺寿会
山本 照子

終戦の前年、秋のはじめ、当時出征していた兄の武運長久を祈願するため、母と私たち姉妹三人

その頃、南方で転戦を

は鶴岡八幡宮へ参詣し、松並木のつづく若宮大路を歩いて、一の鳥居わきにあつた茶店で一休みしてから由比ヶ浜へ出た。

続けていた兄が、ニューギニアのムガ島で戦死していたことを後で知った悲しい思い出である。

瀬戸内の孤島

大平山丸山白扇会
大橋 孚

私の海は、瀬戸内の絶海の孤島、岡山県最南端の島で、周囲が二里ばかりで人口三百人足らず。誇れるものは灯台だけ。文字どおり白砂青松の六島にある。小学校に上がる前のたった二年間しかそこには住まなかつたが...

私の家は港から近く、辺りに人家のない海岸沿いの一軒家だった。縁側から四国がすぐそこに見える、夜ともなれば香川県多度津の明かりが美しかった。私は体が弱く、消化不良を起こすと大変だった。島

文芸

俳句

には医者がいなかったから、時化ていようと特別に郵便船を仕立て、私、母、そして三つ違いの弟のお守りをするために、姉に小学校を休ませ、皆で本州の病院に入院した。入院は、ほぼ一ヶ月だった。退院すると私は日がな一日、縁側からぼんやり海を眺めていた。



夏になると、島の子供たちは皆フリリンで泳いだ。中には木の盥に乗り、遙か外国航路の船の近くまで繰り、大波を被ってひっくり返ると起こし、また乗って水を掻き出すのだ。

秋には早朝、尾道の吉和から一本釣り「でべら鯨」の舟が沖に来て、一日で帆柱いっぱいになるで帆のように鯨をぶら下げて、夕風のなかを帰って行く。

の原点六島に何度も足を運んだ。十五年前にも鯛の解禁を待って「私の原点を見せる」と、友人たちを丸め込み、総勢十人で東京から、今や人口七十人ばかりになってしまった六島に出かけた。島を歩き回り、最後に南端の丘の上の、今では無人の灯台に登り、長閑な海を見はるかした。

一人の友人が「天国に一番近い所だなあ」と洩らした。その友人はもういない。

山ノ内梅鶯会 松岡美代子
滝白し滝壺を出て透明に
かたまりて落ち爆ぜて散り滝の水
飛び散りて草をたたきて滝の水
山ノ内梅鶯会 高橋 斌
赤い社旗卵波を蹴つて小豆島
螳螂の子をかばいつつ草を引く
青々と稲田の奥の牛蛙
山ノ内梅鶯会 坂井ちか子
撥ね太鼓ひびく両国秋暑し
一病を過すベッドや敬老日
病棟の一期一会の九月尽
山ノ内梅鶯会 山下カヨ子
梅干しの出来上りよし瓶並べ
秋高し富士見える管車窓より
どう生きて夫喜ぶや盃蘭盆会
浄明寺寿会 山本 照子
旅にしてねぶた太鼓の跳人かな
ト口箱の氷片に透く初さんま
遅れ着く島の棧橋星月夜
新鎌倉山笠りんどつ会 中久喜たい
鎌倉や青田風あり照り曇り
江戸川の土手は梅雨晴れ渡し舟
武士の腰掛石や春つらら

忘るるは生きて行く知恵サクランボ
風生る梔子の香垣根越え
新鎌倉山笠りんどつ会 志摩 悦子
茄子の花インド原産葉広かげ
音のみで姿も見えず梅雨曇り
週末は新茶じっくり予定なし
川宿の尾塩たっぷり鮎膳に
段葛すつかり青葉人の波
七里ガ浜句会 阿部 弥生
いくたびも児が振り向いて今朝の冬
幼名を呼び合う友と栗御飯
月の道自問自答をくりかえし
七里ガ浜句会 加野 ヨウ
コスモスの風や銀座の四丁目
一と葉だになくてたわわや柿の朱
冬菊やひとりぐらしの増えし谷戸
七里ガ浜句会 金子 貞子
地蔵彫る石工の肩に秋あかね
掃除機にひと日の弾み秋の朝
夫へ供華摘む手へ親し秋の蝶
七里ガ浜句会 藤枝 笙
帆も波も雲に連なり秋涼し
晴れ渡る刈田白鷺斜いに
水光る青き竹藪刈田中



七里ガ浜句会 下條八州男
かまぎりのよるよる歩く冬日差し
椅子六つ秋風立ちぬ独り酒
老いの坂滑り落ちたり秋の酒
七里ガ浜句会 棟渡登志子
そこはかと源平池の秋惜しむ
古き歌に我が身を重ね星月夜
破れ蓮や人の絆の断ちがたく
七里ガ浜句会 米澤 節子
海の町緋模様は秋茜
仲秋の木々の声きく風の音
仲秋の京の路地訪ふ麩饅頭
七里ガ浜句会 矢島 芳子
静けさや朝桐を聞く目覚め
波音の岬に立てば残る虫
秋霖や燭に影なす岩屋仏

施設訪問



西鎌倉の閑静な住宅街のとある一軒家に、たるいさんちのデイサービス「デイ・西かま」と看板が出たのは四年前。地域の中でゆつたり過ごせる施設をと民家を改修し開放、小規模ながらも家庭的な雰囲気のあるスペースの中で、介護保険の有無にかかわらずサービスを提供している。送



生きがい対応型デイサービス
たるいさんちのデイサービス
「デイ・西かま」

この施設では一般的なデイサービスの他に、鎌倉市から元気老人対策の一環事業として委託をうけ、生きがい対応型デイサービスも展開している。急速に高齢化が進み介護を必要とする高齢者が急増するなかで介護予防が重要視されるよう

迎から健康チェック、食事や入浴の日常生活支援に加え、健康体操やレクリエーション、趣味作業などを通じての生きがい支援に力を入れている。また、多機能な事業内容で、昨年から大船方面から要望の声があり、分室として「デイ・西かま」ランチ・大船も開設された。

になってきたが、介護予防は介護保険のスタートの時から声を大きくしていったことと樽井氏(写真左)はいう。この事業では介護保険利用者でもなく老人クラブで元気に活躍するでもない、ちょうど中間のグレーゾーンの方に光が当たるのだ。



おだやかな時間が流れる空間で進行される多彩なプログラムは、名句迷句ゲームや巻き絵・音楽ゲームが大好評。また、遊びにも流行があり今は風景や浮世絵などの塗り絵が一番人気となっている。しかし、あらかじめ用意しているプログラムもおもしろい盛りだくさんだ。

生きがい対応型デイサービス施設 (介護認定を受けていない方対象)

実施施設名	連絡先
名越やすらぎセンター	☎25-1188
玉縄すこやかセンター	☎47-1338
今泉さわやかセンター	☎45-4611
デイ・西かま	☎32-6823
デイ・西かま分室 ランチ大船	☎45-2931

デイ・西かま
送迎、健康チェック、入浴、健康体操、レクリエーション、趣味作業など
午前9時30分～午後3時
定員6名
デイ・西かまランチ・大船
健康チェック、健康体操、レクリエーション、趣味作業など
午前10時～午後2時
定員10名
【問い合わせ】
NPO法人かまくら在宅生活相談センター
鎌倉市西鎌倉3-10-7
☎0467-38-1158

「一期一会ではないが、今まで知り得なかった方と話をしたり、共感できる場ができたことも喜んでいらつしやいます」というとおり、新しい出会いに利用者も喜びの色を浮かべている。

老年期の精神疾患を防ぐためにも引きこもりがちな

方が集まれる居場所をつくり、毎日楽しく過ごすことが大切である。超高齢化社会を迎えるにあたり、安心して近所のたるいさんちで過ごす「感覚で利用できる」というような施設の需要が増えるのではないだろうか。同じ立場の人とコミュニケーションをとる機会が増え、精神的に安定し、老化の防止につながるこの事業の今後の発展にますます期待が寄せられる。

鎌倉散歩



離山富士見地蔵尊と石塔群

大船三丁目の辻に地蔵尊があります。言い伝えでは、十七世紀後半、地蔵山の上にあつたということですが、次第に低い所に降ろされ、現在では道の高さと同じ所に鎮座しています。昔は富士が見えたのでしよう。

ております。

当地蔵堂の敷地内に五輪塔五基(一つは宝篋印塔の一部)と、文政十年の供養塔及び古老の言う北東百mの十字路にあつた馬頭観音が並んでいます。



もう一基あつた石塔が今は、常楽寺に移つたと言われています。それは高さ九センチ程の角柱で、頂きに一匹の猿が伏つている庚

ここは鎌倉幕府から山内を通つて小袋谷の水堰橋をまわり、成福寺の前に至り、昔、新田義貞が鎌倉を攻めた道です。「鎌倉街道中ノ道」という石造道標が建っています。

離山町内の老人会が清掃・供花等世話をし、八月第三土・日曜に祭りを行つ

和服に身を包み、優しい笑みに上品さを漂わせる岡野さんは明治三十九年九月十一日生まれ、今年で百歳を迎えた。今でこそ趣味はないが、若い頃はお琴や茶道(表千家)をたしなんだ。茶の湯はおい

しいお茶をもって主客とともに楽しむことに大きな意義がある。取材中も岡野さんは「お茶がおいしくなくて困りますね」と気を配り、今もその心を忘れない。また、朝夕のおつとめは日々かかさず般若心経を唱え



今号の やまももさん
浄明寺寿会
岡野きみさん(100歳)

る。慈しみをいつも心に置き、毎日を過ごしている。昭和五十七年からは御主人と二

申供養塔です。頂きに一猿の彫刻(市内で四基のみ)は鎌倉の特徴で、近隣市町にはありません。

正面には、栗船もんじゅぼさつ道、栗船山常楽寺。向かつて右面は、かまくら雪ノ下道。左面に、庚申供養塔同行九人となり、裏面に、享保三年十一月吉日(一七八年)と彫つてあります。

この辺を整備する時に常楽寺となつていたのでただ単に寺に移したと思われま

す。昔は田で常楽寺へは畔道を行くしかないし、雪ノ下道はここからの街道が正しい道標である。地蔵は大船駅から約十分、レイ・ウエルへの途中です。(離山ちとせ会 伊藤 仁)

人きりで西国三十三ヶ所を巡る旅をしたという。御主人は仕事で海外に出向くことが多かったため、岡野さんは留守を預かり家を守り続けた。「旅は罪滅ぼしのつもりだったのだと思います」と自身は語るが、御主人は岡野さんをと

ても愛し、そして感謝の念でいっぱいだったことだろう。長寿の秘訣は、毎日を気楽に過ごすこと。米寿を過ぎた頃に腸閉塞を患ったが、今はどこにも悪いところはない。担当医師が「その後、一度も病気になる人なんて見た

ことない」と一驚したエピソードもあるほどだ。今一番の楽しみは孫と曾孫の成長。お孫さんたちは九十九歳の誕生日に歌や花、または手づくりの色紙を贈り、皆で長寿を祝った。岡野さんは嬉しさを胸がいっぱいになったという。ご家族のあたたかい見守りを受け、岡野さんは幸せいっぱいなのだ。

スポンサー各位へ御礼
「やまもも」発行に際しご協賛いただきました各位に厚くお礼申し上げます。本紙は会員相互の交流と生きがい向上に、さらに内容の充実に励んでまいります。今後も倍旧のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。
ゆめクラブ鎌倉

お詫びと訂正 前号2面に掲載した辰巳芳子氏のインタビュー記事に誤りがありました。2段目前から17行目の「顔世」は「顔施」でした。辰巳芳子先生をはじめ皆様に慎んでお詫び申し上げます。(博報社編集部)

表紙の写真 円覚寺
円覚寺は臨済宗円覚寺派総本山で鎌倉五山の第二位、開基は北条時宗、開山は仏光国師無学祖元、落慶法要の行われたのは弘安5年(1182)、国宝舍利殿などがある。
夏目漱石の作品のなかに、作家の眼からその印象が克明に描かれている。漱石は明治27年12月末から翌月7日まで短期間、円覚寺の釈宗演のもとに参禅し、塔頭のひとつ帰源院に滞在した。
円覚寺の境内、白鷺の池を横切って横須賀線が敷設されている。北鎌倉臨時停車場は昭和2年に誕生し、正式な駅に昇格したのは昭和5年である。(都筑 健一)

原稿募集 | 投稿規定
会員の皆様からの投稿をお願いいたします。
原稿用紙は「やまもも」専用用紙(12字×13行)使用。用紙は編集部宛ご請求下さい。
「単位クラブ活動紹介」六百三十文字まで。活動の様子を写した写真二枚添付。
「文芸」エッセイ、詩、短歌、俳句、川柳など。エッセイは六百字程度。
「鎌倉観光スポット」観光客にあまり知られていないが、ぜひ紹介したいスポット。六百六十文字まで。写真二枚添付。
「鎌倉の中の私の秘密(または大切な)ところ」のテーマで、四百字以内。随想を募集します。一般公募のコーナーです。送り先は鎌倉市役所高齢者福祉課内老人クラブ連合会事務局(鎌倉市御成町18-10)まで。
原稿締め切りは、平成十八年二月末日。紙面割りの都合で、原稿の採用、内容の一部修正等についてはご一任願います。原稿等は返却いたしません。
編集後記
今回の第五十五号では、新しい試みとして、各地区の動き、のほかに、各都府県からユニークな活動状況をご投稿いただきました。この記事が会員相互の交流や親睦、そして健康づくりにもお役にたてば幸いです。ありがとうございました。今後とも一層のご支援をお願いいたします。
編集委員 伊藤 実